

今学校は揺れています

永田ひろみ（旧姓 松浦）

1983年（昭和58年）学部卒



皆様、こんばんは。昭和58年に学部を卒業しました、永田ひろみです。4回生のときは落ちこぼれていましたが、丸山先生の講究に出ていました。卒業後は母校の大阪府立北野高校に勤務、永田と一緒にいったシカゴ大では学校数学のプロジェクトのお手伝いもさせてもらいました。帰国後再び府立高校に勤務したのですが、出産退職。息子が小学生になったタイミングで教壇に復帰し、雲雀丘学園中学・高等学校に勤務しています。

井川先生から、「懇親会で高校現場の内容でスピーチを」とメールをいただいたのが10月23日でした。「エーっ私が」と恥ずかしいのですが、今日は学校現場でどんなことが問題になっているかをお伝えしようと思います。

さて、学校は何で揺れているのでしょうか。まず、地震で揺れました。2018年6月18日7時58分に起きた大阪北部地震は0時間目でした。すでに登校していた生徒と一緒に校庭に避難しました。この日は1日中クラスの生徒の安否確認や登校していた生徒をどうやって無事に家に帰すかなど対応に走り回っていました。

次に学校は何で揺れているのでしょうか。それは大学入試です。なんで、大学入試で揺れるのかって？まあちょっと聞いてください。今日の話聞いていただいたら、納得していただけたと思います。

まず、大学入試についておさらいしましょう。私立大だけではなく、最近国公立大学の入試も早くからスタートしています。夏休み明けのAO入試にむけて（京大は特色入試と名前がついています）高校3年生の中には夏休みの多くの時間を「自己推薦文」や「学びの設計書」といった書類作成に費やす生徒が出てきました。入試はまず書類選考ですから、生徒だけでできればいいのですが、多くの場合教員も手伝うこととなります。秋には推薦入試が、そして、年明けにセンター試験、2次試験と、大学入試は多様化、長期化しています。選択肢が広がるのは可能性が増えていいことですが、早くAOや推薦で決めて楽をしたいと思う生徒もいて……。そんなわけで、高校3年生はいろんな入試に揺れています。

今年の高校2年生は大学入試が変わることで揺れています。2020年1月の最後の大学入試センター試験に代わるテストとして2021年度入試から「大学入学共通テスト」

が実施されることになっています。このテストは、これまでの作問の仕方を見直し、より知識の深い理解と思考力・判断力・表現力を重視しようということになっています。そのために国語と数学で記述式問題を導入し、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用も行うということになっていました。でも、この英語の民間試験利用の話と、記述問題を出すというのはなくなりそうです。（文部科学省は同窓会総会の直後の11月1日に、「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りを、12月17日に、記述問題の実施の見送りを正式に表明しました。）高校2年生は「大人はいい方にかえようと思ってくれているのかもしれないけど、いろいろいじってくれて、どうやって対策すればいいのよ。まったく人迷惑だよね。」って揺れています。

大学入試がどうなるかわからなくて揺れているのは、今在学している高校生だけではありません。新カリキュラムを考えなくてはいけない全国の高等学校の数学の先生もです。この春入学してきた中学1年生が高校に入学する2022年から新学習指導要領「生きる力」が高等学校において年次進行で実施されます。数学では現行の数学I、数学II、数学III、数学A、数学Bに、数学Cが加わっての6本建てになります。前の課程の形にもどるのですが、学習する内容は変わります。一番変わるのが、ベクトルがどの教科書にのるかです。今はセンター試験の科目にもある数学Bでベクトルは扱われています。それゆえ、センターを受験する高校生は文系理系ともに、ベクトルを学習しています。でも次の改訂では数学Cでベクトルは扱われることになります。となると、理系だけにベクトルを学習させるのか、それとも数学Cの一分野であるベクトルだけを文系にも学習させるのか、まだ現場は決められないのです。というのも、大学入試でのベクトルの扱いがどうなるかが発表されていないからです。この状況は数学Aの3分野（確率、図形、整数）のうちどれを出題範囲とするかが、なかなか大学から発表されなくて困ったという、前の学習指導要領改訂のときと同じです。ちなみにセンター試験では2分野の問題を選択しますが、ほとんどの大学の2次試験では3分野すべてを出題範囲にしています。その結果高校では3分野を2単位に突っ込んで教えているのが現状です。

こんな風に学校現場では生徒も教師も大学入試のために揺れているのです。

ここまでは、懇親会でお話したことを書かせていただいたものです。ここからは、もっと揺れている、今の勤務校の話です。そう原因はコロナです。2月27日の首相の休校要請をうけて29日土曜日の登校を最後に生徒は登校禁止。期末テストは中止になり、成績は1、2学期の成績を参考につけました。3月末で一旦休校は解除になり、4月7日に中学と高校の入学式は行いましたが、4月9日から5月末まで、またも休校となりました。GW明けからはオンラインでの授業もしました。6月の分散登校、時差登校の短縮授業期間を経て、やっと7月は通常授業となり、無事に期末考査が終わりました。日常が戻るかと思われたのですが、残念ながら感染拡大で、また、時差登校の短縮授業となっています。1学期終業式は8月7日、2学期始業式は24日の予定です。学校は今でも揺れています。学校にも確実に新しい時代が来ています。改革の波が否応なく押し寄せてきています。

一日も早くコロナが収束することを願ってこの文章を終わらせていただきます。最後までお付き合いいただきありがとうございました。